平成5年(1993年)10月1日　第542号

広報えびな

編集・発行
海老名市役所広報広聴課
〒243－04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎（0462）31・2111

世帯と人口
（平成5年9月1日）
世　帯　38,243　（＋65）
人　口　110,640人（＋66）
男 57,121人 女 53,519人

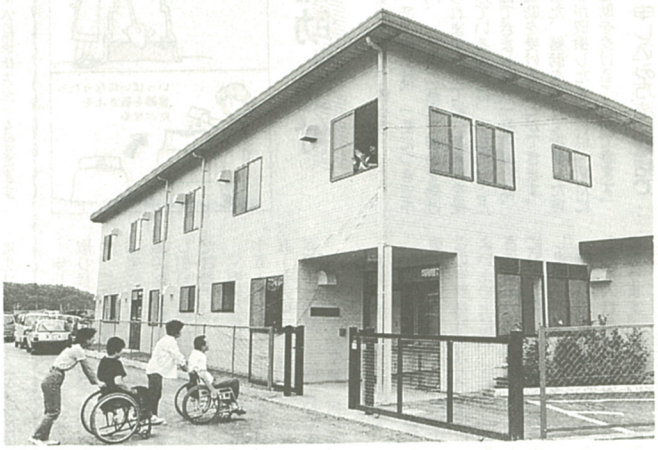
福祉の拠点またひとつ

あきば作業所が完成

障害が違っても一緒

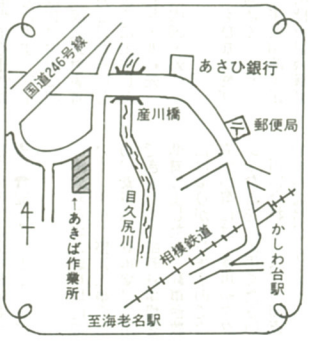
上今泉に市内で3カ所目の地域作業所

障害者に生きる喜び、働く楽しさを与える場として「海老名市立あきば作業所」がこのほど完成しました。この施設は、わかば作業所、わかば第二作業所に次ぐ三カ所目の地域作業所として、在宅の障害者に作業訓練や生活指導などを行うことにより、社会的自立を図る目的で建設されたものです。



"障害者の社会参加"の促進は、市の障害者福祉施策の重点項目の一つとして充実を図っています。一般企業への就労が困難な在宅障害者の社会参加、自立促進を推進させるための拠点施設として「海老名市立あきば作業所」が上今泉六丁目に約九千九百万円をかけて建設されました。建物は軽量鉄骨造りの二階建てで、一階は身体障害者を対象に、二階は精神薄弱者を対象にした障害者地域作業所です。

身体障害者と精神薄弱者が同一建物内で作業するという地域作業所は、県内でもあまり例がなく、構想、設計の段階では、指導員、障害者の団体などと安全性、処遇の方法など細部にわたって協議しました。その結果、基本的に一階部分と二階部分を独立した施設と考え、更衣室、食堂、事務室も別々に配置し、共用する陶芸室、浴室の利用に際して廊下に仕切り戸を設置して、作業時間中、互いの作業が円滑に進むよう配慮しています。



障害者とともに

あきば作業所の運営は、今まで老人ホーム中心荘のプレハブ倉庫を借りて、身体障害者の地域作業所を昭和六十一年から運営してきた「障害者共同作業所えびなワークショップ（鈴木治郎所長）」が、障害者指導の経験を生かして行います。

作業所では、身体障害者にはダンボール加工、陶芸、手芸などのほかワープロを使っての原稿作成も行います。また、精神薄弱者にはプラモデルの部品組み立て、ダンボール仕切り組み立てなどを作業訓練として行い、これら作業のほかに基本的な生活習慣の指導や陶芸、七宝焼きなどの創作活動、キャンプ、施設見学なども自立促進プログラムの一環として年間行事に組まれています。単に就労の場を提供する施設でなく、障害者が生活する場としての役割を併わせ持っています。

市の地域作業所としては三カ所目となるあきば作業所は、障害者の増加、高齢化、重度化、また今まで自宅に引きこもっていた障害者の受け入れなどから既設のわかば作業所、わかば第二作業所での受け入れ人数が多くなり、通所地域の再編成の必要が生じたこと、また、身体障害者の地域作業所「えびなワークショップ」が老朽化し、また狭いため十分な訓練ができないなどから早急な建設が必要になったものです。

障害者五団体で構成する市障害者団体連合会の小川会長は「最近高齢者の話題が多く取り上げられているが、障害者の問題も重要です。市の障害者福祉は、あきば作業所の開所によって施設面では大きく前進するので、今後ボランティアの活動や施設運営のソフト部門の充実が図られるよう市と協力して進めていきたい」と話していました。

完成したあきば作業所（写真右上）と室内で和やかに作業する障害者（写真下）

あきば作業所の概要

海老名市立あきば作業所の建設概要は次のとおりです。

▷建設場所　上今泉6丁目11番15号
▷工　　期　平成5年4月20日～9月30日
▷敷地面積　662.26㎡
▷建築面積　295.44㎡
▷延べ床面積　580.30㎡
▷建物構造　軽量鉄骨造り地上2階建て
▷定　　員　身体障害者25人、精神薄弱者25人
▷各階の主な施設　▶1階（身体障害者）作業室、事務室、食堂、更衣室、陶芸室
▶2階（精神薄弱者）　作業室、小作業室、休養室、食堂、浴室

生ごみ減量　処理容器300基

新たに「購入費補助」受付

11月1日から1世帯2基まで

「生ごみ処理容器の購入の一部を補助する制度」は、六月から実施し、受け付けをしましたが、多数の方の申し込みをいただき、即日、受付終了となり、ご迷惑をおかけしました。

その後も、みなさんのご要望がありましたので、今回新たに三百基の補助を受け付けます。ぜひ、生ごみ処理容器を利用して、ごみの減量化、資源化にご協力をお願いします。

なお、数に限りがありますので、申し込み数に達した場合は受け付けを終了します。

補助対象者と補助金額

① 市内に住所があって、実際にすんでいる方。容器を設置することができる方。

② 容器は、一基につき三千円、一世帯二基まで補助を受けられます。すでに二基補助を受けている場合は、申し込むことはできません。一基の場合は、補助を受けることができます。また、補助を受けて設置した容器が破損した場合には、新たに補助を受けることができます。

申し込み方法は電話で

十一月一日から美化衛生課へ電話で申し込んでください。なお、窓口でも受け付けますが、印鑑をご持参ください。

▽受付時間　月曜～金曜日午前八時半～午後五時。土曜・日曜・祝日は除きます。

申し込みの際、容器の種類と取り扱い業者（別表）を選びます。これは受け付け後、業者がお宅に伺い、申請の手続きや容器の配達をします。補助金を差引いた額だけを負担していただきます。

▽容器の目安　一般家庭用三～五人用が百三十～百五十ℓ、五～七人用百九十～二百五十ℓ、大家族用は容量二百四十ℓです。

▽今回の補助基数　三百基。

設置と取り扱いについて

容器は、大きなバケツの底を抜いたような形をしています。この容器を庭先などの水はけのよい土の上に五～十センチほどの深さに埋め、倒れないように外周に沿ってしっかり盛り土をして固定します。

生ごみは水分が多いので、そのままえれると悪臭の発生の元になります。生ごみの投入の際には、水切りをよくするとともに、落ち葉や庭ごみなども一緒に入れ、できるだけ細かくして入れ、ときどき容器をかき混ぜてください。水分が調整できるとともに、発酵も促進されます。

容器の中がいっぱいになったら、容器を引き抜き、土を被せて、しばらくそのままねかせておきます。堆肥になったものは、花壇などに施せば効果的です。発酵促進剤を利用すれば、堆肥化を早めるとともに脱臭効果もあります。

なお、設置場所は、容器がいっぱいになったときに移設しますので、畳一畳ぐらいの広さが必要となります。

▽問い合わせは、美化衛生課（内544）へ。

取扱業者	容器名	容量	幅×高さ(ミリ)	斡旋価格	購入者負担額
宗光産業㈱ ☎74-1145	コンポスター130	130ℓ	600×660	5,200円	2,200円
	コンポスター190	190ℓ	720×710	5,500円	2,500円
海老名市農業協同組合 ☎31-1771	コンポスター130	130ℓ	600×660	5,200円	2,200円
	コンポスター190	190ℓ	720×710	5,500円	2,500円
寿産業㈱ ☎0427-97-1075	ミニかんだ-BOX	130ℓ	560×600	5,200円	2,200円
	わんだ-BOX	200ℓ	610×660	6,000円	3,000円
	ゴミキエール	150ℓ	620×730	5,500円	2,500円
	ゴミキエール	240ℓ	720×885	6,500円	3,500円

22日　行政特設相談所を開設

十月十七日(日)から二十三日(土)は、秋の行政相談週間です。市では、週間行事として、次のとおり特設相談所を開設します。

この相談所では、行政相談委員、人権擁護委員、民生委員の方々が、市民のみなさんの役所などの仕事に対する苦情を解消するため、みなさんと役所などの間に立って第三者として相談をお受けします。

相談はいっさい無料で、秘密は厳守されますので、お気軽にご利用ください。

▽日時　十月二十二日(金)午後一時半～四時。

▽会場　市役所二〇二会議室。

▽相談事項　交通安全、公害、消費者保護、税金、年金、保険、環境衛生、道路、国有財産、その他。

なお、上記相談日以外にも相談を受け付けています。

【定例相談】　毎月第四金曜日午後一時～四時。市役所二階市民相談室で開いています。

家庭教育を考える市民のつどい

市教育委員会では、毎年、市PTA連絡協議会とともに「家庭教育を考える市民のつどい」を開催しています。

第十二回を迎える今年度は、佐々木正美先生（小児療育相談センター所長）の講演「家庭と子どもの精神保健」、市民代表による意見発表などを行います。

▽日時　十月十六日(土)午後一時二十分～四時四十分。

▽会場　市役所四階四〇一会議室。

▽対象・定員　PTA会員、一般市民二百七十人、入場無料。

▽申し込み　十月十二日(火)までに電話か直接、社会教育課(内606)へ。定員で締め切り。

自衛消防隊員による屋内消火栓操法大会

市と市危険物安全推進協議会では、十月二十三日(土)午前九時半から市役所駐車場で「屋内消火栓操法大会」を開きます。

市内工場や病院、スーパー、事業所の自衛消防隊員男子十五チーム・女子八チームが出場し、日ごろの訓練ぶりを披露します。

障害者を雇用する事業主に補助金

市では、心身障害者の労働の機会を広げるため、障害者を雇用している事業主に補助金を交付します。

補助対象は、市内で従業員三百人未満の事業所（支社・支店・分工場を含む）を営み、心身障害者を六カ月以上（週20時間以上）継続雇用している事業主の方です。

対象となる心身障害者は、①身障者福祉法に定める障害の程度の状態にある人で、身体障害者手帳の交付を受けた方、②精神薄弱障害者福祉司・児童相談所長の判定を受けた方――以上のいずれかに該当する方です。

補助額（一人当たり年額）は次のとおりです。

▽市内在住の障害者を雇用している場合　五万円▽市外在住の障害者を雇用している場合　四万円▽新規（平成4年4月2日～平成5年4月1日の間）に雇用した場合　八万円▽申請期間　十月一日(金)～十一月一日(月)に、商工課（内512）へ。

☆第16回ミニ・ミニ運動会

館利用者と地域の住民の交流を図ります▽日時　10月17日(日)午前9時～午後4時▽対象　幼児から一般まで▽参加自由▽会場　運動場、雨天の場合は体育館で。

☆ふれあいケン玉コーナー

ケン玉遊びの用意編を、日本ケン玉協会・中村鈴氏指導▽日時　11月13日(土)午前9時～午後1時▽対象・定員　小・中学生20人＝参加自由▽会場　青年活動コーナー。

☆青年初心者社交ダンス教室

社交ダンスの基礎を練習▽日時　10月16日～12月4日の毎土曜日、全8回）午後7時～9時▽対象・人員　高校生以上、20人＝申込制▽会場　レクルーム。

☆青年のためのマジックマスター講座　簡単なマジックを練習、共催の海老名マジッククラブ・曽根正雄氏が指導▽日時　10月19日～11月16日（毎火曜日、全5回）午後6時半～9時▽定員・人員　高校生以上、20人＝申込制▽会場　会議室A、教材費3千円を徴収。

☆青年生け花教室　生け花の基礎を学びます。小山京子氏が指導▽日時　10月21日～12月2日（毎木曜日、全6回）午後6時半～9時▽対象・定員　高校生以上、15人＝申込制▽会場　会議室B、教材費4千200円を徴収。

☆イベントスタッフ養成講座

具体的なイベントの話を聞き、企画の仕方を学びます▽日時　10月23日～11月27日（毎土曜日、全6回）午後1時～9時▽対象・定員　高校以上及び地域の指導者20人＝申込制▽会場　会議室A。

※申し込み方法は電話（☎31・9787）または直接来館で。

県立青少年会館

情報は広報広聴課へ　　市役所　〒243-04 海老名市勝瀬175　☎31・2111(代)

情報コーナー

◆計量器の定期検査について　商店・病院・学校などで取引または証明に使用されているすべての計量器（電気式を除く）の定期検査を次の日程で実施します▽日時・区域　10月25日(月)中新田・河原口・下今泉・上今泉・浜田町・大谷・国分寺台・上河内・中河内・中野・今里・社家・杉久保・本郷・門沢橋▼26日(火)中央・国分南・国分北・勝瀬・望地・上郷・さつき町・柏ケ谷・東柏ケ谷▼27日(水)前記検査日に受けられない方。時間は午前9時半～午後3時。正午～1時は休憩時間で受検できません▽問い合わせ　商工課（内512）。

◆貸付金利の改定について　海老名市勤労者生活資金の貸付金利が10月1日から引き下げられます▽現行貸付金利　4・89％以内▽改定貸付金利　4・56％以内▽問い合わせ　商工課（内511）。

◆成人式運営委員を募集　市では、毎年成人式対象者のみなさんに運営に携わっていただき、式典の司会、受付などを担当する運営委員を募集しています。第1回の委員会は10月中旬に開催予定です▽成人式対象者　昭和48年4月2日から同49年4月1日までに出生した方▽問い合わせ・連絡先　社会教育課（内606・607）。

◆（仮称）えびな女性プラン策定に向けて　▽日時　10月23日(土)午前10時～正午▽場所　市役所前仮会議室▽テーマ　女性プラン策定に向けて▽内容　①特別講演①女性を取り巻く状況について、講師　長岡短期大学教授・金井淑子氏②参加者との意見交換▽申し込み・問い合わせ　企画課（内303）10月20日まで受けつけ、定員10人※手話と保育もあります。

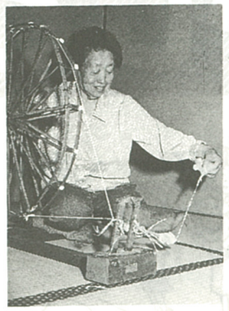
◆平成5年度難病（特定疾患）講演会と相談会　血液系難病（再生不良性貧血、突発性血小板減少性紫斑病や血友病など）の患者及びその家族を対象に、みなさんの療養生活や社会復帰のお役に立てていただけると思いますので、ぜひご参加ください▽日時　10月14日(木)午後1時～4時▽場所　厚木保健所海老名支所会議室▽内容▼講演会「血液系難病の理解と治療」講師　東名厚木病院内科部長・大島充一先生▼相談会予診（保健婦）医師による診察・相談、県難治性疾患団体連絡協議会相談員による相談、日常生活・食生活・医療費・福祉などについての相談（保健婦、栄養士ほか）▽申し込み　10月13日(水)までに厚木保健所海老名支所（☎32・7911）へ。

◆大和斎場の駐車場について　現在、斎場内の駐車場が使用できません。臨時駐車場を準備しましたが、駐車台数には限りがありますのでご来場の際には、電車やタクシーなどをご利用ください▽問い合わせ　広域大和斎場組合（☎64・5256）。

温故館特別展　衣の暮らし再現

10月19日→11月21日

～糸車から花嫁衣裳まで～


いまでは珍しい糸車から糸取りの仕事です

温故館では、十月十九日から第十八回温故館特別展「衣の暮らし―糸車から花嫁衣裳まで―」を開催します。

かつて糸取りから機織り、裁縫まで女性が支えてきた「衣」の暮らしは近年、デパートやスーパーでの衣料品販売が発達したことで随分と様変わりしました。

そこで温故館では、糸車や裁縫道具から野良着、花嫁衣装まで「衣」に関する民具を通して明治から大正・昭和前期にわたる「衣」の暮らしを再現します。今では珍しくなったトージン、モモヒキなどの作業着や手織りの着物、ミノ、カサなどの雨具、あでやかな振り袖、貴重な写真の数々が、少し前の海老名の暮らしを思い出させてくれます。

また、合わせて糸車による糸取りと、機織りの実演を行います（体験もできます）。ぜひお起しください。

▽期間　十月十九日（火）～十一月二十一日(日)、月曜休館日。

▽場所　温故館一階。

▽実演　糸車による糸取り、機織り（体験は小学生向け）。十一月十三日（土）午前十時～十一時と午後二時～四時。

▽問い合わせは、社会教育課（内686）、温故館（☎33・4022）へ。

糸取り・機織りの実演　体験もどうぞ

市長随想

「もったいない」という言葉が忘れられ「消費は美徳」という言葉に移りましたが、バブルがはじけた今でもその名残りがあるようです。

子供の頃、親から「ご飯をこぼすと目がつぶれる」とたしなめられたのが懐かしく思い出されます。

先日「もったいない運動キャンペーン」に日本青年会議所北海道地区協議会のみなさんが来庁され、当市の青年会議所の方々と一緒にお話を伺いました。

この運動は、パーティーなどで残った料理を、消費に慣れた若い方が容器に入れ、持ち帰るなどいろいろ模索され、キャンペーンのテーマを「食」とし、その中で野菜を取り上げたそうです。

野菜の生産者は、見栄えが良く、高く売れるように、形をそろえる選別をすることから、まだ食べられるのに捨ててしまうものもあるようです。更に市場でもまだ食べられる葉などが処分されており、当市の市場からも施設組合へ「もったいない運動」を呼びかけてみようとの提案がされています。

これらの処理費用は、最終的に消費者価格に波及しています。

家庭での料理には形や見栄えが良いことが必要でしょうか。野菜は鮮度が良くておいしい事が原点だと思います。

同協議会では、この運動の趣旨に理解を示している大手スーパーが当市にあることから、キャンペーンの訪問地として当市を訪れたということです。「もったいない運動」は、野菜の流通システム一つをとっても、みなさんと考えるべき問題が多いと思います。

北海道から来庁されましたみなさんに敬意を表します。

海老名市長　左藤　究

もったいない運動

野良着のいろいろ　民俗学講座もご参加を

市教育委員会では、この特別展に合わせて民俗学講座「野良着のいろいろ」を開催します。

トージンやモモヒキを見て、昔の野良着を懐かしく思い出す方も多いでしょう。今回は野良着についての世界各地の状況をおりまぜ、民俗学の側面から講師の宮崎玲子先生にお話をいただきます。ぜひご参加ください。

▽日時　十月三十一日（日）午後二時～三時半。

▽場所　市役所七〇一会議室

▽参加費無料。

▽申し込み　電話か直接、社会教育課（内606・607）まで、先着五十人で締め切り。

左藤市長と語る川口みよさん（右）

高齢者163人　市長らが訪問

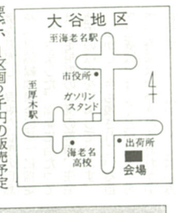
「ご長寿おめでとうございます」――市では、左藤市長らが市内在住の九十歳以上のお年寄り百六十三人を訪れ、お祝いしました。

これは、敬老の日を前に、九月三日、市長、竹内助役、井上収入役、市民福祉部長らが四班に分かれ「高齢者訪問」したもので、敬老年金、同祝金、記念品をみなさんに贈りました。

市内最高齢者は、九十九歳の木村きみえさん（中新田）ですが入院中。このため川口みよさん（98歳・国分南）と市長の写真が紙上掲載となりました。

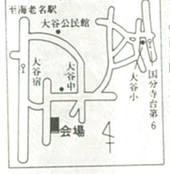
川口さんは「健康の秘けつは一日二食、昔から粗食ですが甘い物が好きです。家の中では一人で歩きます」と元気いっぱいでした。

大谷地区



門沢橋地区

大谷地区



◆大谷地区（土の日）

▽日時　十月二十四日(日)午前九時から（品物がなくなり次第、終了となります）。

▽会場　大谷三四〇番地の畑、大谷中学校南側。会場付近には、のぼり旗を掲出しております。午前九時に花火を打ち上げます。午前九時十三分。

▽販売方法　直接ご来場ください。掘りとったサツマイモを廉価で販売します。

▽問い合わせ　農産課(内524)。

※ミニ青空市も開設します。

◆ラッカセイ

◆大谷地区（ふれあい農業）

▽日時　十月十七日(日)午前九時～午後三時。

▽会場　大谷二七三番地の畑。

▽販売方法　直接ご来場ください。掘りとったラッカセイを廉価で販売します。

▽問い合わせ　農産課(内524)。

※ミニ青空市も開設します。

◆ラッカセイ

◆高齢者植木手入れ講習会（12・1月分）学校体育館会計分▽日時　10月21日(木)午後6時受け付け開始、6時半調整会開始（6時半以降の入場は認めません）▽会場　市役所4階401会議室▽対象　登録団体の代表者▽持ち物　登録証、印鑑（簡易印は不可）▽その他　調整及び申請の手続きは必ず本人が行うこと、調整会後の空白日については、1カ月前から市教育委員会で直接受け付けます。

◆高齢者植木手入れ講習会　▽日時　10月18日(月)午後1時～4時半▽会場　市内業者の植木畑（バスで送迎）雨天の場合は市総合福祉会館▽内容　初心者向け、秋から冬に向かっての庭木、盆栽の手入れ方法▽受講料　無料▽対象・定員　市内在住の60歳以上の男女30人、先着順▽申し込み　市社会福祉協議会高齢者無料職業紹介所（☎35・0220）。

◆緑化講習会・参加者募集　花を中心に市緑化推進協議会が開催します▽日時・場所　第1回「土と肥料について」10月23日(土)午前10時～正午、市役所202会議室、第2回「バラを楽しむ」10月30日(土)午前8時半～午後4時、県立フラワーセンター大船植物園▽対象・人員　各2回参加できる方で先着35人、受講料無料▽申し込み　電話で公園緑地課内「市緑化推進協議会事務局」（内624）。

◆わかば作業所・七宝画展　創立15周年記念の催しです▽日時　10月18日(月)～24日(日)午前10時～午後5時（初日が午後1時から、最終日は午後4時まで）▽会場　TEPCOギャラリー（横浜市）＝入場無料▽問い合わせ　わかば作業所（☎35・2704）。

◆介護者教室　▽日時　10月19日(火)26日(火)午後1時半～3時半▽会場　わかば会館交流室▽内容　19日「在宅での介護の方法I」26日「在宅での介護の方法II」※実技を交えた講演となりますので動きやすい服装でご来所ください▽講師　田中和子氏▽参加受付　わかばケアセンター（☎35・2702）。

◆学校体育施設日程調整会（12・1月分）学校体育館会計分▽日時　10月21日(木)午後6時受け付け開始、6時半調整会開始（6時半以降の入場は認めません）▽会場　市役所4階401会議室▽対象　登録団体の代表者▽持ち物　登録証、印鑑（簡易印は不可）▽その他　調整及び申請の手続きは必ず本人が行うこと、調整会後の空白日については、1カ月前から市教育委員会で直接受け付けます。

◆高齢者植木手入れ講習会　▽日時　10月18日(月)午後1時～4時半▽会場　市内業者の植木畑（バスで送迎）雨天の場合は市総合福祉会館▽内容　初心者向け、秋から冬に向かっての庭木、盆栽の手入れ方法▽受講料　無料▽対象・定員　市内在住の60歳以上の男女30人、先着順▽申し込み　市社会福祉協議会高齢者無料職業紹介所（☎35・0220）。

◆緑化講習会・参加者募集　花を中心に市緑化推進協議会が開催します▽日時・場所　第1回「土と肥料

実りの秋・掘りとりのご案内

大谷地区と門沢橋地区で、掘りとりを行います。各会場とも多少汚れてもよい服装で手袋、軍手などをお持ちになり、みなさんでご参加ください。

● サツマイモ

◆大谷地区（土の日）

▽日時　十月二十四日(日)午前九時から（品物がなくなり次第、終了となります）。

▽会場　大谷三四〇番地の畑、大谷中学校南側、会場付近には、のぼり旗を掲出しております。午前九時に花火を打ち上げます。午前九時十三分。

▽販売方法　直接ご来場ください。掘りとったサツマイモを廉価で販売します。

▽問い合わせ　農産課(内524)。

※ミニ青空市も開設します。

● ラッカセイ

◆大谷地区（ふれあい農業）

▽日時　十月十七日(日)午前九時～午後三時。

▽会場　大谷二七三番地の畑。

▽販売方法　直接ご来場ください。掘りとったラッカセイを廉価で販売します（予約については、事前の連絡が必要で、1区画2千円の販売予定です）。

▽問い合わせ　伊田☎31・7340)、間宮（☎31・6322）。

● サトイモ

◆門沢橋地区（ふれあい農業）

▽日時　十月十七日(日)午前九時～午後三時、雨天の場合は十月二十四日(日)に実施。

▽会場　門沢橋一〇八二番地の畑。

▽交通　JR相模線門沢橋駅から徒歩十分。または厚木駅から神奈中バス・茅ケ崎行で門沢橋駅バス停下車、徒歩十分。

▽販売方法　直接ご来場ください。掘りとったサトイモを廉価で販売します。

▽問い合わせ　内海（☎33・4536）。

みんなの伝言板

◉海老名ラグビースクール新入生募集　すべての子供たちにオールラウンドな動きを▷対象　幼稚園年中以上、小学1年～6年、中学生▷日時　毎日曜日9時～正午▷場所　主に小田急グラウンド▷会費　月額700円▷問い合わせ　山崎（☎33・6662）。

◉学童保育杉の子クラブ指導員募集　子供が好きで、一緒に遊んでくださる方お待ちしています▷問い合わせ　昼間＝杉の子クラブ（☎34・8438）夜間＝伊勢（☎32・6870）。

◉子供のためのフルート教室　初心者から吹ける人まで戻ります▷日時　10月5日～12月21日・毎火曜日午後4時～5時▷場所　海老名青少年会館▷対象　小学生～中学生▷楽器　持っていない方は借用可（ただし、数に限りがあります）▷参加費　1カ月1000円▷講師　フルーティーカルテット　並里善史先生▷主催　アルカディアフルートアンサンブル▷連絡先　佐竹（☎0463・87・7893）。

このコーナーに掲載を希望される方は、原稿を作成して◎広報広聴課（内272）へ。スペースの都合で掲載できない場合があります。

市役所は一部の業務を除き、すべての土曜日をお休みしています。

お問い合わせは行政管理課（内282）へ

市政に生かして

前略

平成四年度にみなさんから寄せられた「市長への手紙」の集計結果が、このほどまとまりました。昭和四十八年から始まったこの制度は、市民のみなさんが日ごろ思っていること、みなさんの"声"を市政に生かすためのものです。お気軽にご利用ください。

4年度集約まとまる

四年度も多くのみなさんから貴重な手紙をいただきました。今回はこの中から三通の手紙を紹介しますが、個人のプライバシーを守るため、名前は省略させていただきました。

駅周辺の開発は？

海老名市は中堅都市であるのに、今の海老名駅前は何となく淋しい。今後の駅前開発は？

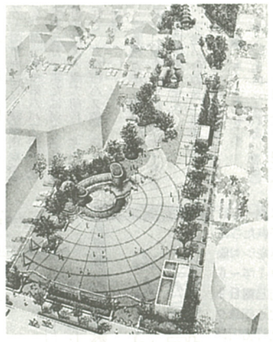
河原口　会社員

〈回　答〉

本市の"玄関口"ともいえる海老名駅は、小田急線、相鉄線、JR相模線などの交通の結節点でもあるので、中心市街地として位置づけています。この中心市街地をどのように整備していくかを考えますと、本市は県央に位置していることから、将来交通の要衝になるとともに、周辺都市の拠点と連携し発展する可能性があり、こうした立地条件を生かしたまちづくり、市民のみなさんの生活拠点となるまちづくりなど、多様な機能が集積する中心市街地整備が考えられます。

このような中心市街地形成には、海老名駅の東側だけでなく西側を含めた周辺の一体的な土地利用が図れるよう、道路などの都市基盤施設の計画・整備を進め、駅周辺の開発が進み、高度利用できることを検討しています。また、そこに集まる人々の利便性・快適性を満たすように、商業、業務、文化、レクリエーション施設などを誘導するとともに、安全な歩行者空間の確保を図るよう方策を講じる予定です。

海老名駅周辺の開発は、地権者の方のご理解とご協力が前提ですが、中心市街地は市民共有の場であると言えます。後世に悔いを残さないように、市として進めるべき事業に今後とも取り組みますので、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いいたします。



駅前東口の中央公園完成予想図
（地下の駐車場とともに平成7年完成予定）

件を生かし利便性・快適性を満たす駅周辺の開発が…

駅前派出所は今年2月に完成

派出所を設置して

海老名駅前には交番がありません。道順を知りたいときや不便ですし、事件や事故に遭ったときのことを考えると不安です。ぜひ、交番の設置をお願いします。

国分寺台三丁目　主婦

〈回　答〉

海老名駅周辺に出店した大型店、金融機関などを利用する市民のみなさんが増え、駅周辺でも事故、事件が多発して、派出所の設置が望まれています。

このため本市では、以前から県や関係機関に要望していましたが、それに対し県などでは、所在場所が住民の方にわかりにくかった国分の派出所を、駅東口に移転することを了承しました。現在工事が行われており、平成五年二月には完成いたします。

自然を残す努力を

私は海老名市が好きです。なぜなら自然が多く残っているからです。住宅も企業もお店も現在あるだけで十分足りていると思いますので、自然を残すための努力をお願いします。そのためには私たちも協力いたします。

中新田　主婦

〈回　答〉

海老名市もベッドタウンとして急激に人口が増え、住宅開発が進み、自然が少なくなっていきますので、ご協力をお願いいたします。

市が購入した上今泉の自然緑地

市ではいろいろな対策を講じてきました。例えば、環境保全条例を制定し、良好な状態の自然を「自然緑地保全区域」に指定してきました。開発に当たっては一定規模の公園の整備、住宅地内の緑化を指導しています。

しかし、今も残されている自然区域は、ほとんどが個人所有で、将来は開発される恐れがあります。このため本市では「みどり基金」を設け、地域のみなさんが自然環境に接することのできる区域については、自然の保全を目的に用地の買収にも取り組むことにしています――中略――今後も自然を残し、みどりを創造するまちづくりを進めていきますので、ご協力をお願いいたします。

小学生諸君！17日は市役所で楽しいひとときを

ジャンボかるた大会

10月17日
市役所芝生広場

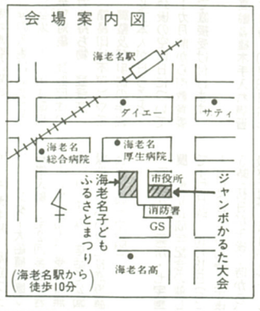
広場に散らばった大きな絵土かるたを取り合うゲームです。楽しみながら郷土の歴史や文化財についても学べます。当日はすてきな賞品をたくさん用意していますので、小学生のみなさんは、お友達と一緒にご参加を！（親子での参加も大歓迎）。

▽とき　10月17日（日）午前11時からと午後1時半からの2回。どちらも1時間程度（雨天の場合は10月24日に変更）▽ところ　海老名市役所芝生広場▽参加方法　当日直接会場へ。▽問い合わせ　社会教育課（内686）。

とまつり

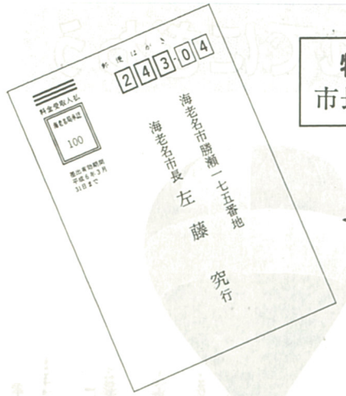
事広場

ゲームを企画



のための。フェスティ
会が企画したグランド
楽しいゲームや催しも
自由に参加できますの
へおいでください。
時半～午後3時（雨天
海老名市役所西隣り
育課（内687）。

特集 市長への手紙 あなたの声

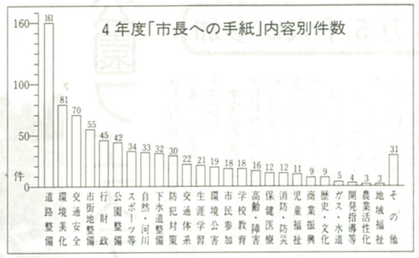


道路整備が第1位

投函数は701通

平成四年度に市民のみなさんから寄せられた「市長への手紙」は七百一通（投函率一・九％）で、内容別件数は七百九十六件でした。

これらの手紙を出された人の内訳は、男性二百九十七人、女性三百六十一人で、年代別では四十代、職業別では会社員（パート・アルバイトを含む）が一番多く、次いで主婦となっています。また、地区別にみると圧倒的に多いのが上今泉で、次いで杉久保、国分寺台、国分北、柏ケ谷、国分南となっており、主に市北部の人口集中地区からの投函が目立ちました。



駅周辺を含む道路整備が1位に

主な内容は…

市長に寄せられた手紙を項目別にみると、第一位は去年と同じ「道路整備」の百六十一件（全体比二〇・二％）で、市道の舗装、かしわ台駅周辺道路の改善、歩道やガードレールの設置などの内容でした。

第二位は「災害対策の強化」の八十二件（同一〇・三％）でしたが、中でも交通安全対策の推進に関する要望が特に目立ち、その内容は交通規制の新設、駐車違反の取り締まり、信号機・横断歩道の設置などでした。

第三位は「環境美化」の八十一件（同一〇・二％）で、ごみ収集体制の充実、資源回収の徹底化、美化意識の推進などが主な内容でした。

以下、海老名・かしわ台両駅周辺の整備、駐車場・駐輪場の確保などの「市街地整備」が五十五件で第四位。市職員の待遇を含む、行政運営の充実などを望む「行財政」が四十五件で第五位。公園の設置・整備を望む「公園整備」が四十二件で第六位となっています。

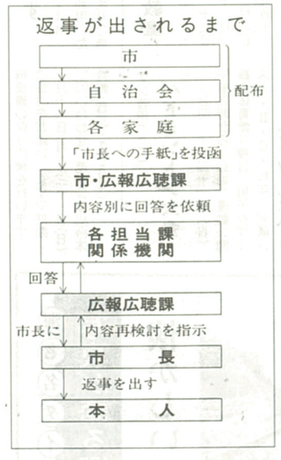
手紙の中には資源回収の徹底化を望む声も

なお、平成四年度の「市長への手紙」の傾向としては、海老名・かしわ台両駅周辺の整備、特に駅周辺道路の整備を望む手紙が急増したこと。また、ごみの不法投棄などに関連して、美化意識の啓発を要望する手紙が目立っていたこと、などが挙げられます。

住所氏名をお忘れなく

みなさんからいただいた手紙は広報広聴課でまとめ、内容別に担当課や関係機関に回答案の作成を依頼します。担当課などでは調査・検討後に回答案を作成し、手紙とともに市長に報告します。

市長は、それらすべてを検討し、回答が不十分なものについては担当課に再検討を指示し、再検討後に手紙を寄せられた人に返事を出します。



みなさんの手元に返事が届くのは、平均一カ月以上かかりますが、必ずご本人に返事を出します。ただ、みなさんから貴重な提言をいただいても、宛て名が無記名ですと返事を出すことができませんので、必ず住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入してください。

この「市長への手紙」は、みなさんのお宅へ配布するほか、市役所、市文化会館など市の公共施設に置いてありますのでご利用ください。

▽「市長への手紙」についての問い合わせは、広報広聴課（内271・272）。

"歌人の心"味わう

テレビ成人学級で「短歌入門」

今回は、NHK教養番組の中から「短歌入門」を取り上げます。歌人の松本盟子（まつもと・めいこ）さんを講師に迎え、古今の歌人とその作品にふれ、基礎知識を学ぶとともに、実際に短歌を詠んで、その楽しさを知る講座です。

日時・内容は別表のとおり。定員は35人（多いの場合は抽選、受講料は無料、筆記用具を持参してください。

▽申し込みは、10月15日（金）までに社会教育課（内683）。

開催日時	学習内容
10月25日（月）10:30～12:00	＊和歌から短歌へ　万葉集、古今集から近代までの和歌史をたどる
11月1日（月）10:30～12:00	＊近代短歌の魅力　晶子、啄木、白秋らの作品鑑賞　☆短歌実作の手引き1
11月8日（月）10:30～12:00	＊現代短歌の魅力Ⅰ　大正から昭和世代の作品鑑賞　☆短歌実作の手引き2
11月15日（月）10:30～12:00	＊現代短歌の魅力Ⅱ　戦後生まれ世代の作品鑑賞　☆短歌実作の手引き3

海老名子どもふるさ

10月17日　市役所

市内の子ども会が各種

＊小学生の小学生による小学生バルです。当日は市内の各子どもゴルフ、靴とばし、綱引きなどののがいっぱい！小学生なら誰でもで、お友達を誘って、ぜひ、会場▷日時　10月17日（日）午前10の場合は10月24日に変更）▷会場の催事広場▷問い合わせ　社会教

青空の下、家族連れでにぎわう

'93運動公園フェスティバル

6万5千人が参加

「どう、上手でしょう！」と描き終わった熱気球の絵をお母さんに見せる子供（写生大会より）

親子で竹馬作りに挑戦

スポーツ・レクリエーションを楽しみながら健康意識の向上を図り、緑にも親しんでもらおうと、「'93海老名運動公園フェスティバル」が九月十五日、海老名運動公園で開かれました。

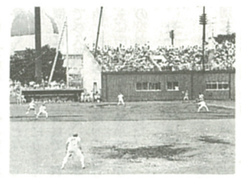
当日は、海老名駅から会場まで無料シャトルバスを運行し、「スポーツ・健康・グリーン」の三部門の催し物に、家族連れなど約六万五千人が参加しました。

野球場では、イースタンリーグ公式戦の「横浜対西武」の熱戦が行われ、「こんなに目の前で見たのは初めて、やっぱりプロの選手ってすごいな!!」という子供たち。

学校給食展示コーナーでは、学校給食二十周年を記念して、約六百食のカレーを用意、行列ができるほどの人気で"昔の味"を思い出して試食するお父さんの姿も見られました。

また、熱気球体験搭乗会コーナーでは、気球で地上約十七㍍まで上昇して、ひとときの空中散歩を楽しみました。子供たちからは「青い空に吸い込まれていくみたい！」という声も。

来場者からは、天候にも恵まれ、とても楽しい一日を過ごすことができました」という感想も聞かれました。



プロのプレーに大歓声が…

◆平成5年度市総体バドミントン大会結果（8月15日）

◇男子ダブルス【Aクラス】▽1位　田中哲美・佐藤知也▽2位　伊藤直行・今野健一【Bクラス】▽1位　山口文之・蜂巣春彦▽2位　細貝耕三・上假屋淳一【Cクラス】▽1位　桜井直則・山口和弘▽2位　矢吹義秋・牛尾真

◇壮年ダブルス▽1位　那須孝・小川元衛▽2位　金子明・小俣照雄

◇女子ダブルス【Bクラス】▽1位　江原サト子・帆足幸子▽2位　市川泰子・市川敦子【Cクラス】▽1位　矢吹明代・山本英子▽2位　清田祥世・波多野安美

スコアブック

臨時休館します

運動公園屋内プール

みなさんに快適にご利用いただくため、水の入れ替え及び機械設備の保守点検を行います。ご協力をお願いします▽期間　十月十八日(月)～三十一日(日)▽問い合わせ　運動公園総合体育館(☎35・7204)。

初心者テニス教室

▽日時　十一月十日(水)、十二日(金)、十七日(水)、十九日(金)、二十六日(金)、十二月一日(水)、予備日＝十二月三日(金)、八日(水)、午前九時～十一時▽会場　運動公園庭球場（4面使用）▽対象　初心者五十人（申し込み多数の場合は抽選）▽参加費　三千円（初日に徴収）▽申し込み　往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して市テニス協会（中央2－7－5　海老名郵便局私書箱9号）へ十月二十日必着▽問い合わせ　氏原（☎32・7801）。

市総体卓球大会

▽日時　十月十七日(日)午前九時から▽会場　運動公園総合体育館▽種目　男女シングルス（A・Bクラス別）▽対象　市内在住、在勤、在学の中学生以上の方▽参加費　無料▽申し込み　ハガキに住所、氏名、性別、電話番号、所属、クラス別を明記し、十月十三日（水）までに市卓球協会・飯田勝（〒泉1150、自動車鈑物㈱）へ▽注意事項　ゼッケン着用のこと。

バドミントン大会

▽日時　十月三十一日（日）午前九時から▽会場　運動公園総合体育館▽種目　男子ダブルスA・B・C・壮年（40歳以上）、女子ダブルスA・B・C▽競技方法　予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦で実施▽参加費▼一般　千五百円▼高校生　千円▼協会員　千円▽申し込み　市バドミントン協会・佐藤純子（さつき町9－26－203、☎32・4795）まで、十月二十二日（金）必着。

秋、スポーツに挑戦

教室や大会に参加しませんか

小・中学生対象の卓球教室

▽日時　十一月六日～二十日、毎週土曜日、全三回、午後二時～四時半▽会場　運動公園総合体育館▽定員　八十人▽服装・持ち物　トレーニングウェア（体操着）、上履き、ラケット▽申し込み　市体育課（内686・607）へ電話または直接。定員になり次第締め切ります。

白球を追う表情も真剣…

"熱き打ち合い"夢見て

青年教室「硬式テニス」に25人参加

公民館だより

講師から出されるボールを打つ受講生

スポーツの秋に向けて、青年教室「硬式テニス・初級者入門編」が、九月二日から海老名運動公園テニスコートで行われています。

受講生は、十代から三十代までの二十五人。海老名市テニス協会指導普及部の坂間義勝さん、氏原政枝さんら四人の講師の指導のもとで、テニスの基礎を学んでいます。

初日は、台風の影響で夕方から雨も降り出しましたが、開始時間には雨も上がり、受講生は手首、足首や筋肉をほぐす柔軟体操から始めました。

「ウォーミングアップを怠るとねん挫などのけがをしやすいですから、十分に体をほぐしてください」

という注意のあと、いよいよラケットを手にして実技へ…。まずはラケットの握り方、素振りなどを経て、講師が打ち出すボールを打ち返すレッスンが行われました。受講生は、なかなかラケットにボールが当たらなかったり、思うように足が動かず、悪戦苦闘のようでしたが、ストロークのフォームや足の運び方など講師のきめ細やかな指導で、受講生も徐々に打ち返すときの要領がわかってきたようでした。

「見た目には簡単だと思っていてもいざ打ってみると思うようにボールをコントロールできませんね。でもかしずつ上達してラリーができれば…」

といった感想が聞かれるなど、受講生はテニスの楽しさに夢中になっていました。

全十回の同教室が終わりに近づくころには、コート上は受講生の明るい声とともに、相手コートにすばらしい「スマッシュ」が打ち込まれる日もそう遠くはなさそうです。

最初は「永」の文字から

書道教室で習字の基本学ぶ

一字一字丁寧な指導で徐々に上達

九月二日から始まった「書道教室」では、講師に海老名市文化団体連合会書道部会長で書家の武井希夫さんを迎え、二十人の方がたが熱心に「日本文字の"美"」を学んでいます。

一回目は、筆の手入れや扱い方を学んだ後、習字の基本である「永字八法」の実習に入りました。「永字八法」とは「一永」という文字を習得することにより、点やはねなどすべての文字に共通する八通りの運筆法を学ぶもので、受講生は先生から渡された手本の「永」という文字の練習に取り組みました。

「手首をやたらに回すのではなく、ひじを中心にして筆を運び、肩の力を抜いてリラックスして書いてください」

という先生のアドバイスに、「頭では理解しているのですが、どうも思い通りにいきませんねえ」

という声が聞かれました。最初は書道に対する不安と緊張に包まれていた会場も、先生の丁寧でわかりやすい指導に、だんだんと和やかな雰囲気に変わり、やがて、

「先生、ちょっと見てもらえませんか」

という声や、質問などが飛び交うようになりました。

この講座は、十二月までの毎週木曜日、全十回にわたって行われます。これからは宿題、行書、ひらがななどを学びますが、書道の奥の深さに受講生の関心は高く、来年は、筆で書かれた心のこもった年賀状が受講生の間を行き交うことでしょう。

今月のプロフィール

ガラクティスト頑張る

不用品材料にアイデア工作を生み出す

後藤（ごとう）　猛（たけし）さん

「ポルトンボ」「クリップギンバエ」「電池カブト」「カップめん地球儀」…など、かわいくて楽しい工作を発表しているのが、さつき町在住の"ガラクティスト（がらくた・何か作る人）"後藤猛さん（イラストレーター、53歳）。

「自分が子供のころは、身近にあった竹などを使って竹とんぼを作って遊んだものですが、今はその材料を見つけるのが大変。昔の材料にこだわることはない、『精神』だけを受け継いで、現在の生活の中で余っている物で何かできないか…これが始まりなんです」

後藤さんの作る工作は、使用済み電池に手・足・ひげの針金を接着剤でつけて作るバッタなど、材料が日常的に手に入りやすく、専門的な技術や道具を必要としない。できればお父さんが子供と一緒に作れれば一番、をモットーにしている。身の回りにある一見"がらくた"にしか見えない物でも、後藤さんの手にかかると楽しい工作に"変身"。

後藤さんは、息子や娘に自分が子供のころ覚えた「手作り遊び」を伝えたいと考え、"おやじ塾"と称して、割ばし鉄砲、ススキのミミズクなどを子供たちと一緒に作る"親子の時間"を持ち続けた。子供がおもちゃを卒業した後は、"おやじ塾"で今まで作ったものをまとめて、学習書などに発表している。

中新田の仕事場には、所狭しと材料の"がらくた"や、作品が置かれ、最近では、後藤さんの評判を知っている近所の子供たちが、工作の材料になりそうな、ペットボトルのキャップなどを届けにきてくれるそうだ。

本業のイラストレーターの仕事より"ガラクティスト"の方が忙しくなった後藤さんは、ピーナッツ人形で忠臣蔵の工作を掲載した展示会や、今までに発表した作品を掲載した本も発行。

「普段の生活の中で、お父さんが子供に、手作りの『何か』を教えてくれるようになってほしいですね」と話す後藤さんは、今後も次々と手作りおもちゃのアイデアを生み出すことだろう。

図書館から

巡回おはなし会

市図書館では、次のとおり巡回おはなし会を開きます。お友達を誘ってきてください。絵本の読み聞かせに関心のあるお母さんのおいでもお待ちしております。

▽とき　10月22日（金）午後3時20分～3時50分▽ところ　下今泉自治会館▽対象　4歳以上のお子さん、お母さん▽内容　おはなし、絵本、紙芝居など。

カセットブックの貸し出し始めます

11月3日（水）から、文学書や歌集などを録音したカセットブックの貸し出しを始めます。1階カウンター奥の小説類の棚に陳列しますので、次の要領でご利用ください。

☆貸し出し　通常の図書の利用手続きと同じで、カセットブックを選び、貸出券と一緒にカウンターへお持ち下さい。

☆返却　カセットテープを巻き戻した状態で必ず図書館のカウンターに返却してください。

※収蔵カセットブック著者名などは別表のとおり。複製、貸賃および無断公開・放送は禁じます。

収蔵カセットブック著者名	
芥川龍之介	石川　啄木
井上ひさし	井伏　鱒二
志賀　直哉	島崎　藤村
高村光太郎	川端　康成
北原　白秋	倉橋由美子
北　杜夫	沢村　貞子
坪田　譲治	谷崎潤一郎
宮沢　賢治	鑑賞百人一首
樋口　一葉	太宰　治

平成5年度文化講演会

「近頃私の思うこと」

〈講　師〉
内藤國雄氏

＞とき　11月3日（水）午後2時から＞ところ　市文化会館＞講師　内藤國雄氏＞テーマ　近頃私の思うこと＞入場料　無料＞対象　市内在住在勤者＞申し込み　電話で市中央公民館（☎32・3231）へ。定員1100人先着順。

海老名タイムトンネル

写真が語る郷土の歴史

懐かしいリヤカー路

観音下から柏ヶ谷へ

現在は車と電車が頻繁に往来する

昭和15年龍峰寺を訪れた故中山毎吉氏と家族（中山春樹氏所蔵）

この写真は、昭和十五年八月、現在の国分北の観音下、相模鉄道の踏切付近から柏ケ谷方面を撮影した写真です。

相模大塚から転居してきた渋谷茂さん（国分北）は、そのころの様子を次のように話しています。

「当時、観音下付近は、二十軒ぐらいしか民家がなく、線路沿いには畑が広がっていました。相模鉄道は、神中鉄道と呼ばれ、相模川の砂利を積んだ蒸気機関車の貨車と客車が走っていて、観音下の踏切西側にあった相模国分駅から横浜に行ったものです。

また、相模鉄道沿いの柏ケ谷へ抜ける道は、道幅も狭く人通りもわずかで、転居のとき、身の回りの物をリヤカーにのせて妻と運んだのも懐しい思い出です」

このコーナーでは、市内に残る古い写真を紹介します。風景や風俗、人物などを撮った古い写真をお持ちの方は、市史編さん室（内291）へご連絡を。

フォトピックス

〝作りがい〟あった

中心荘の作品展とバザー

九月十五日から五日間サティ海老名店文化ホールで、養護老人ホーム中心荘のお年寄りたちが「作品展と手作りバザー」を開いた。

会場には絵画や書道などが展示され、また、バザーにはお年寄りが作ったぬいぐるみや造花など約千六百点が用意された。

作品を熱心に見入る来場者

同展は、毎年好評で売り切れの品物も続出、「大ぜいの人が訪れてくれるので〝作りがい〟を感じます」というお年寄りの感想も聞かれた。

日ごろの成果発表

市民音楽祭に千人

〝真っ赤に燃えた太陽だから…〟。演奏するのは、平均年齢八十歳の養護老人ホーム「中心荘チェリーズ」。九月五日に市文化会館で行われた第八回海老名市民音楽祭は、この「美空ひばりメドレー」で始まった。

市民手作りの音楽祭を目指して三月から実行委員（田辺智子実行委員長、19人）が準備を進め、当日は器楽、コーラス、邦楽の三部門に十九団体が参加したほか、舞台転換の間に田辺智子さんの琴と並里善史さんのフルートによる合奏「春の海」が披露された。

最後に出演者と来場者が一緒になって「浜千鳥」を合唱し、幕を閉じた。入場者は千人。

最後に「浜千鳥」を合唱

漫談など楽しむ

文化会館で敬老のつどい

園児から花束のプレゼントが…

市内の七十五歳以上のお年寄りを招いて、長寿を祝う「敬老のつどい」が九月十三日、市文化会館で行われ、午前、午後合わせて約千二百人のお年寄りが出席した。

式典では、出席者中、最長寿夫妻である岡本重雄・ヤマ夫妻（国分南、89歳・82歳）らが紹介され、その健康を拍手で祝ったほか、市内保育園児がお年寄りたちに花束をプレゼント、

「いつまでもお元気で…」

という園児のあいさつに目を細めて喜ぶお年寄りも…。

その後、漫談や歌謡ショーを楽しんだお年寄りは、「また来年が楽しみ…」と、送迎バスでそれぞれ帰路についた。

4種目で熱戦

少年少女球技大会

九月五日、市子ども会育成会連絡協議会（渋谷邦夫会長）主催の「少年少女球技大会」がコカ・コーラグラウンドで行われた。

同球技大会は、市内六地区の予選会を勝ち抜いた子ども会のチームが、ソフトボール、男・女ドッジボール、混合ドッジボールの四種目に熱戦を展開、天候にも恵まれ三十一チーム六百二十人の子供たちが参加。各種目の優勝チームは、ソフトボール・五丁目若葉A（柏ケ谷）、男子ドッジボール・ティズニー（中央南）、女子ドッジボール・社家（南）、混合ドッジボール・なかよし（中央南）だった。

白熱したゲームを展開する子供たち

海老名むかしむかし

☎33・3838（みんわみんわ）

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

9月21日～10月12日　第143話　東大地震と関門橋

〃10月13日～11月1日　第144話　蛇っ食い嘉仁門

海老名むかしばなし

第311話　徳行を秘めた記念碑

国分北二丁目にある弥生神社の境内には、たくさんの碑が建っているが、その中に麗しい話のまつわる記念碑がある。

その碑は第二の鳥居の右手、気根を垂らした樹勢盛んな大イチョウの傍らにある。高さは八十㌢、幅は広い所で四十七㌢、厚さ約十五㌢の不整形な仙台石で、台石を含めて全高は九十八㌢ほどある。

碑の正面真ん中に「金壱百円」、これをはさんで石に「御大礼記念基本財産寄付」、左に「大正四年十一月」、下半部に「国分押田仁兵衛七十八才、妻スワ六十九才」と割書きに刻まれている。繰り返すようだが、これはもと国分三〇一二番地（現在の国分北一丁目）に居住の押田仁兵衛夫妻が、大正四年秋、大正天皇の御即位の礼を記念に、弥生神社の基本財産にと金百円を寄付した、という記念碑なのである。

この年の米一俵の価格は、東京の深川相場で五円二十三銭とあるから、米に換算するとざっと二十俵近くになる。大変な額である。しかし、驚くべきことは、額そのものよりもこの寄付金の中味である。それは、妻スワさんの寄特な行為によって得た浄財が含まれているのである。

まず、そのスワさんの人となりだが、小柄できれいで親切心があり、人の面倒見がよかった。特に貧困者には物的援助までしてあげた。自分の意見を素直に聞き入れてくれる人には、親身になって力を貸す、というふうだった。

そのスワさんは、かねてから秋の収穫時に、海老名耕地の畦や大縄（昔の農道）に稲穂が落ちているのを見て、もったいないと思っていた。それが高じ、果ては「思うより実行」と落穂拾いに精を出すようになったのである。

このころ、一般に普及していた多収穫の稲の品種は「神力」という種類だった。だが、穂首から折れやすいのが欠点だった。その上、当時はすべてが手作業であったので、ややもすると遅刈りになり、一層弊害が高まった。畦に立てて乾燥させておいた稲束を、大縄に運び出して積んでおいた所や、直接荷車に積み込んだ跡などには落穂が目立って多かった。

戦後食糧難のころ、そうした場所を探して落穂拾いをした経験があるが、半日で籾一ぐらいなので、馬鹿馬鹿しく思ったものだった。

しかし、スワさんは根気よくこれを何日も、また何年も続けたのである。その換金額はいくらであったか知る由もないが、「塵も積もれば山になる」の例えを実践し、その得た金を寄付金に加えたのである。夫唱婦随であったか、またはその逆であったかは知らないが、誰に強要された訳でもなく、善根から発したその寄付行為は、まさに賞賛に値する。一見ありふれた記念碑であるが、その裏にはこのような殊勝な話がひそんでいるのである。

安政四年（一八五七年）の国分村の「人別御改帳」によると、仁兵衛家の田畑の持高は二石二斗四升五合であるから、幕末のころの同家は高持百姓の部類には入らなかった。だが、仁兵衛さんの代になって家運が隆盛になったのであろうか、明治三十三年十一月十日出版の「神奈川文庫第五集百家名鑑」にその名が見える。この書にある旧海老名村での登載者は九十二人、旧有馬村では二十三人、うち国分は十四人。この中に仁兵衛さんは入っているので、このころすでに名望家の範ちゅうに入っていたと思われる。

私の父は大正五、六年ごろ、字尼寺の仁兵衛さん所有の畑を小作していた。だから子供のころ、この畑に横浜の坂田商会と特約していたユリの球根植えとか、クワ摘みなどによく通った。仁兵衛さんとは一面識もないが、この文章を書くのも何か因縁めくものを感じるのである。

仁兵衛さんは大正四年に七十八歳であるから、逆算すると天保七年（一八三六年）生まれとなる。建碑した六年後の大正十年三月四日に、八十四歳という高齢で天寿を全うされた。今日の長寿社会に比するなら九十半ばに匹敵するほどの長命である。墓地は座間入谷の円教寺地内にある。

「仁精院温良日謙居士」はその戒名で、よくその人柄が反映されているようである。

なお、昔話ではないが、仁兵衛さんの長男は、いったんアメリカへ移住した。だが、晩年また帰国し、横浜に定住したという。その長男の子、つまり仁兵衛さんの孫は、アメリカに残り志願して軍人となった。この青年が軍曹の階級で、厚木基地へ進駐してきたのである。

昭和二十七年ごろのことで、任務はランドリー（洗濯）の監督官であった。たまたま国分から同基地へ通勤している人がいた。職場で二人は知り合い、この人が国分在住だと聞いて、

「国分は私の父祖の地。関係者がいる。ぜひ案内してほしい」

ということで、その人は押田二族や組合の家々を案内する労をとった。

押田青年は背が高く、日本人離れしたハンサムな面立ちで、チョコレートなどを手土産にあいさつ回りをして満足気だったという。基地勤務は一年半ぐらいで日本を去ったというが、耳寄りな話なので加筆させてもらった。

（池田　武治）

弥生神社にある押田夫妻の記念碑